

鹿屋市水産業振興計画 概要版

第1章 はじめに

1 策定の趣旨

本市の水産業・漁村の振興を計画的に推進していくため、本市水産業の特色や現状、環境の変化等を反映させた鹿屋市独自の計画として策定するもの

2 計画の位置付け

「第2次鹿屋市総合計画」に基づく個別計画であり、本市水産業施策の総合的な指針として位置付け

3 計画の期間

10年間（令和5年度～令和14年度）※5年毎にローリング

第2章 水産業を取り巻く諸情勢

1 海面漁業

カンパチを中心とした海面養殖業が漁業生産額の大部分を占め、その他には小型底曳網でヒメアマエビ、一本釣・はえなわでタイやアジが漁獲され、ヒジキなどの海藻類も水揚げされている。

2 内水面漁業

生産量のほぼ全てをウナギ養殖が占める。種苗は全てが天然資源に依存しており、人工種苗の生産技術は未確立である。

3 水産物の流通

本市には、水産物の集荷や価格形成機能を担う卸売市場があり、大隅地域全体の市場機能を担っている。

第3章 基本理念と目標

【基本理念】

「持続可能な水産業」の実現
～魅力ある水産業のために～

	指標	基準値	目標値
目 標	海面漁業水揚高	4,502百万円	5,000百万円 (1割UP)
	人工種苗利用率	10%	40% (4倍UP)
	輸出額	0百万円	540百万円
	漁業ふれあい体験者数	658人	800人 (2割UP)

第4章 施策の推進方針と展開

基本理念の実現に向け、6つの基本施策とそれに基づく取組を展開

現状と課題

1 海面養殖業の振興

- ・カンパチ養殖が海面養殖全体の8割
- ・種苗費、餌料、飼料、燃油等の高騰に伴う生産原価の上昇
- ・需給バランスにより養殖魚価が不安定
- ・海外種苗依存による地政学的リスク
- ・養殖生簀の密集など漁場環境の悪化

2 漁船漁業の振興

- ・水産資源の減少、燃油や資材の高騰により漁船漁業のみでの生計維持が困難
- ・漁業経営体の減少が加速化
- ・藻場の保全等、漁場環境保全活動が必要

3 内水面養殖業の振興

- ・シラスウナギ漁獲量に左右される種苗費の大幅な変動
- ・飼料、原油等の高騰が経営を圧迫

4 担い手の確保・育成

- ・海面養殖業は世代交代が進むが、従業者の確保が課題
- ・漁船漁業は小規模で後継者不足が深刻

5 水産物の加工・流通・販売促進

- ・マーケットインの考え方に基づく、商品開発が必要
- ・鹿屋市漁協の新加工場の機能を活かした商品開発・販売促進の必要性
- ・流通ルートの多様化と海外需要の取込

6 漁村地域の振興

- ・漁村地域の人口減少に伴う活力の低下
- ・地域資源を活用した交流推進の必要性

施策の方向性と取組

養殖業の生産性向上と需要拡大を図り、安定的かつ効率的な養殖経営の実現

- ・人工種苗の導入促進のほか、魚粉代替飼料の検討など生産コスト低減に向けた取組の推進（新規）
- ・計画的な種苗導入による販売価格の安定
- ・ICTを活用した技術導入による操業の効率化
- ・養殖業の環境負荷低減、漁場移設等による漁場環境の改善

水産資源の維持拡大、漁船漁業の複合経営を推進

- ・漁船漁業とカキ養殖やアワビ養殖、観光などの組み合わせによる働き方の提案（新規）
- ・海洋環境改善のための市民の意識啓発
- ・漁業者等が行う環境保全や水産資源拡大の活動支援

天然資源の適切な管理と生産の効率化・省力化を推進

- ・天然資源の適切な管理のための啓発
- ・飼料、原油価格の高騰対策と併せ、ICTの導入等による生産管理の効率化、省力化の推進

水産業の魅力の発信と漁業経営の承継を推進

- ・水産業の魅力の積極的な情報発信
- ・漁業廃業者と新規就業希望者等を繋ぎ、漁業技術や漁船・漁具等の承継の推進（新規）

鹿屋市漁協の新加工場を活用した商品開発や、輸出をはじめ多様な流通経路の構築、地産地消を推進

- ・消費者ニーズの多様化に対応した商品づくりの推進
- ・漁協新加工場の機能や強みを活かした販売促進
- ・小売店や消費者との直接取引など多様な流通・販売形態の確保
- ・カンパチの海外輸出の推進（新規）

観光船受入やブルーツーリズムの推進による漁村地域の活性化

- ・観光船受入、ブルーツーリズム等による漁村地域の交流推進
- ・みなと食堂やみなと市場を活用した活性化の推進

第5章 推進体制

基本理念の実現のため、漁業者、漁業団体、行政が互いに連携・協働し、水産業や漁村振興のために主体的に取り組む

鹿屋市水産業振興計画概要（施策体系と目指す目標）

水産業を取り巻く環境の変化

- ・養殖種苗、飼料、原油価格の高騰
- ・水産物の国内需要の縮小

- ・需給バランスにより魚価が不安定
- ・気候変動による漁場環境への影響
- ・漁業の担い手不足

- ・消費者ニーズの多様化
- ・海外における魚介類消費量の増大

- ・消費者の魚離れ
- ・漁村地域の活力の低下

1 海面養殖業の振興

- ・人工種苗の導入促進のほか、生産コスト低減に向けた取組の推進
- ・計画的な種苗導入による販売価格の安定
- ・養殖業の環境負荷低減（漁場移設等）

Point ▶ 海面漁業総生産額の99.0%が養殖業（9経営体）
中国産天然種苗への依存、生産コストの増大

2 漁船漁業の振興

- ・水産資源の維持拡大
- ・海洋環境改善のための市民意識啓発
- ・漁船漁業と併せた複合経営の推進

Point ▶ 水産資源の減少、経営体数の減少
漁船漁業のみで生計維持が困難

3 内水面養殖業の振興

- ・ICTの導入による内水面養殖業の効率化、省力化の推進
- ・天然資源の適切な管理のための啓発

Point ▶ ウナギ人工種苗の生産技術が未確立

4 担い手の確保・育成

- ・水産業の魅力の積極的な情報発信
- ・漁業廃業者と新規就業希望者との事業承継

Point ▶ 就業者数の減少 H15：247人 ⇒ H30：88人

5 水産物の加工・流通・販売促進

- ・消費者ニーズの多様化に対応した商品づくり
- ・漁協新加工場の機能や強みを活かした販売促進
- ・多様な流通・販売形態の確保
- ・カンパチの海外輸出の推進

Point ▶ 国内市場の縮小と販売形態の多様化
ブリの海外輸出は進むが、カンパチの海外市場は未開拓
市内卸売市場が大隅全体の漁船漁業の水揚げの流通を担う

- 未利用魚の利活用**
- ・漁船漁業の所得向上
 - ・海洋資源の有効活用

カンパチロウを活用したPR

- ・カンパチ販売促進
- ・古江地区への誘客促進



【基本理念】

「持続可能な水産業」の実現

魅力ある水産業のために

水産物の消費拡大
水産業の成長

所得向上による
就業者の増加

安定供給による
売上の増加

6 漁村地域の振興

- ・ブルーツーリズムの推進による漁村地域の交流推進
- ・みなと食堂、みなと市場を活用した活性化推進

Point ▶ 浮棧橋整備、みなと市場再開

	指標	基準値	目標値
目 標	海面漁業水揚高	4,502百万円	5,000百万円 (1割UP)
	人工種苗利用率	10%	40% (4倍UP)
	輸出額	0百万円	540百万円
	漁業ふれあい 体験者数	658人	800人 (2割UP)

